蘆花記念公園(長柄桜山古墳群を含む)ランドデザイン(案)に関する 市民意見募集(パブリックコメント)の実施結果について

ご意見をお寄せいただきありがとうございました。
お寄せいただきましたご意見に対する市の考え方をとりまとめましたので、ここに公表いたします。

1. 意見募集の期間 2024年(令和6年)11月8日(金)～2024年(令和6年)12月9日(月)

2. 意見提出人数 14人(メール9人、持参5人 / 個人12人、団体2件)

3. 意見内容 別紙「結果一覧(要約なし)」のとおり

4. 市の対応区分

記号	対応区分	件数
○	意見を反映し、素案を修正するもの	1件
□	意見の趣旨や考え方が既に素案に盛り込まれているもの	20件
■	意見は反映させないが、今後の事業実施時等に参考とするもの	19件
▲	ご意見を反映することが困難なため、素案どおりとしたもの	5件
◆	今回のパブリックコメント対象外の内容であり、参考意見として扱うもの	2件
	合計	47件

5. 意見の概要と市の対応

※下記に記載のない意見・提案に関しては、関係者で共有し、事業実施の際の留意事項とさせていただきます。

意見概要	整理番号	意見内容	採否	意見数	採否の理由
全体を通しての意見 (14件)	1	整備を進めるにあたって専門家、地域住民と共に文化財を守り活用していく体制も併せて構築し、文化財保護法や関連法規を遵守し適切な保存・活用を進めてほしい。	■	1件	歴史的な史跡や建築物が適切に保存・活用されるよう、専門家等が関わる仕組みを検討していきます。
	2	まずは実現可能なものから手掛けてどうか。進めることで生じる色々な問題を都度解決しながら対応していくことでその先も拓ける。まずは旧野外活動センターから始めてはどうか。	■	1件	民間事業者等への意向調査、事業内容の精査、事業効果の検討などを行い、場合によっては優先順位を決めて進めていきます。
	3	全体を花の名所として代表的な草花・樹木を徐々に増殖して群落をつくる。市民参加植樹祭などの企画もできる。	■	1件	地域の魅力を高める副次的要素として、事業実施時の参考にします。
	4	公園一帯を津波避難地・避難所として整備する。	□	1件	当該地域に土砂災害の恐れがある区域も含まれていることから一部の施設や場所に対応していきます。
	5	高齢者、病人、幼児、妊婦などが屋内避難できるよう各施設を整備・維持する。(防災の観点から)	■	1件	事業実施時の参考にします。
	6	照明、トイレを充実する。(防災の観点から)	■	2件	同上
	7	公園へのルート案内を整備する。(防災の観点から)	■	1件	同上
	8	市内には5000頭の犬が登録されている。ペットとの同行避難場所とする。	■	1件	同上
	9	公園の全体像が把握できるような資料やマップの制作、各種メディアへの広報についてもお願いしたい。	■	1件	同上
	10	地域住民との話しあい、連携を今後とも密にお願いしたい。	■	1件	地域住民や公園利用者との対話は継続していきます。
	11	公園の大半が土砂災害特別警戒区域若しくは土砂災害警戒区域に指定されており、更に、斜面上部は山腹崩壊危険地区に指定されている。市内外から多くの人々を呼び込み滞留を促す場所として現状は好ましいものではない。これらを踏まえると、「前提条件」と「基本方針3」は表現に違和感を覚える。適切な法面処理と樹林管理により安全・安心な公園を目指すことに資するランドデザイン(案)になるよう修正を望む。	○	1件	「基本方針3」を次のように変更します。 3.(防災) 一部の施設については、災害時に地域住民や来訪者の一時避難施設として安全性を考慮したうえで活用すると共に、物資を備蓄することで安心して暮らし、レジャー等を楽しめる環境を整える。
12	新宿会館方式に準じた形態での管理体制を構築し、利便性を図る事で公園、施設の利用度促進を図る。	▲	1件	新宿会館のような自治会等による指定管理は地域住民の負担が大きいため、困難との回答がありました。現時点では民間事業者による管理運営を想定しています。	
13	蘆花記念公園の既存施設をカフェとして活用する案は非常に有効。駐車場がなくても鉄道駅から海岸を観光コースの一つにできると市内の回遊性とにぎわいも大いに高まる。	□	1件	観光コースとして認知していただけるような事業を目指していきます。	
旧脇村邸に関する意見 (4件)	14	登録有形文化財旧脇村邸について審議会の設置などを検討し、複合的な出来事を整理することで貴重な文化遺産であることが理解できる。同時に広報活動がこの地区の価値向上に有効。	□	1件	施設別の利活用のアイデア(P16)に「歴史的価値、伝統構法などを維持するための管理計画が必要」と記載されています。適切に保存・活用されるよう、専門家等が関わる仕組みを検討していきます。
	15	古民家カフェ兼日替わりのカルチャースクールやレンタルスペースとして活用してほしい。規模からはレストランが丁度良いように思えるが、周辺住宅への配慮を考えると昼間限定営業のランチやカフェ、撮影のレンタルスペース程度が良い。	□	1件	施設別の利活用のアイデア(P16)にあるように活用していく計画になっています。
	16	小さな展示会場、お花、お茶、書道、絵画等のミニ教室、ミニコンサート会場、軽食サービス	□	1件	同上
	17	数台の駐車場が必要。	■	1件	事業実施時の参考にします。

旧郷土資料館に関する意見 (5件)	18	鉄骨で再生は塩害の怖さを知らない。主要構造の木造の破損部分の改修と減築とを絡めた再構築	◆	1件	具体的な改修構法についてランドデザインに記載することはしませんが、事業実施時の参考にします。
	19	公園中央部にあり眺望が良い利点を利用してセンター機能を持たせ内部には古墳の資料を展示する。公園全体の管理機能もここでやる。コーヒー、軽食サービスなどができればよい。	■	1件	事業実施時の参考にします。
	20	坂道に上がる広場に駐車場ができないか。	■	1件	同上
	21	逗子八景を望み、逗子の地産のメニューをいただき、寛ぎのひとつが過ごせるカフェや甘味処など飲食店になると素敵。	□	1件	施設別の利活用のアイデア(P17)にあるように活用していく計画になっています。
	22	維持整備し、非常時に津波避難所として利用可能な状態に維持管理する。	▲	1件	避難場所としては旧野外活動センターを想定しています。ただし、災害時に建物が使える状態であれば利用できる運用も考えていきます。
旧野外活動センターに関する意見 (6件)	23	毛布、水、非常食、発電機、テント、無線設備、簡易トイレ、その他生活資材を備蓄する。(海水浴客を考えるとできるだけ多く)	□	2件	施設別の利活用のアイデア(P18)に記載されています。具体的な備蓄の品目をランドデザインに記載することはしませんが、事業実施時の参考にします。
	24	子ども達、市民の交流、活動のため利用する。(以前のようなデイキャンプ、会議、教室利用など)	□	2件	施設別の利活用のアイデア(P18)にあるように活用していく計画になっています。
	25	基本方針8(仕事場の創出)も非常に重要であり、コワーキングスペースはリモートワーカーの方々にとって、移住へのハードルが一気に下がる。来街者へのアピールだけでなく、日ごろからリモートワーキングをしている市民にとって魅力あるコワーキングスペースとなる。	□	1件	同上
	26	旧野外活動センターを宿泊施設とする案はとても良い。お試し移住として短期間で、特に若い世代に宿泊してもらい、逗子での暮らしを実体験してもらう。	■	1件	宿泊施設としての運用方法については、夜間利用も伴うため地域住民と相談のうえ決めていきたいと考えています。
第一第二休憩所に関する意見 (11件)	27	古民家カフェ兼日替わりのカルチャースクールやレンタルスペースとして活用してほしい。	▲	1件	カフェは立地的に優位と思われる他の施設で対応していきます。カルチャースクールやレンタルスペースは施設別の利活用のアイデア(P19)に記載されてレンタル室で対応できると考えています。
	28	市内でも他にはない休憩所が今後、手軽に利用できる施設になるよう、予算を付けてリニューアルしなくさないで欲しい。紅葉の季節は綺麗なので撮影スポットとしても広まってほしい。	□	1件	施設別の利活用のアイデア(P19)にあるように活用していく計画になっています。
	29	昔の日本の建物を子どもたちがふれられる貴重な建物。最低限の修繕でよいので残してもらえたらと願う。	□	1件	同上
	30	建物自体は耐震もないという事なので維持出来なくても構いません。新規で建て直しても良いので、また集会所として、市民が活用しやすい場所にしていきたい。	□	1件	施設別の利活用のアイデア(P19)にあるように活用していく計画になっています。ただし、建て直すことは考えていません。
	31	第二休憩所は、世界中の国がノマドビザの発給が始まることを受けて、環境、設備を整え、旅しながら働き、逗子へステイする旅人たちを受け入れる宿泊&コワーキング施設としての可能性がある。	■	1件	宿泊施設としての運用方法については、夜間利用も伴うため地域住民と相談のうえ決めていきたいと考えています。
	32	第一休憩所は広い空間を利用して、ワークショップ、講演会、映画上映等を行う場として最適。	□	1件	施設別の利活用のアイデア(P19)にあるように幅広く活用できればと考えています。
	33	小さな音楽会やイベント・会合等の場として使える施設にして頂きたい。その為には休憩所のメンテナンスをして頂き、より一層利用者が増すようにアナウンスしていくことが望ましい。	□	1件	同上
	34	第一第二休憩所の利用度向上を図る方向に施策を転換するよう要望する。会議。会合の場、教育、勉強の場、イベント開催の場としての利用等。	□	1件	同上
	35	子ども達、市民の交流、活動のため利用する。(以前のようなデイキャンプ、会議、教室利用など)	□	1件	同上
	36	第一第二休憩所を維持整備し、非常時に津波避難所として利用可能な状態に維持管理する。	▲	1件	避難場所としては旧野外活動センターを想定しています。ただし、災害時に建物が使える状態であれば利用できる運用も考えていきます。

	37	海・山の自然の中で子供を保育する保育施設を設置・誘致する。なお、保育施設として活用するのは、子供たちが遊び育つことが掲げられている「防災・交流ゾーン」に位置し、かつ、施設の改修費用が比較的抑えられると考えられる休憩所とするのが現実的と考える。	▲	1件	レンタル室としての利用は可能と考えますが、1つの団体が長期にわたり占有利用することは現時点では避けたいと考えています。
その他(古墳・ハイキングコース、炊事場、駐車場など)に関する意見(7件)	38	旧郷土資料館の裏手から古墳方面に上がる遊歩道を昔のように整備してほしい。また、富士山の見える眺めのところにテーブルとベンチをまた設置してほしい。	◆	1件	旧郷土資料館の裏手から古墳方面に上がる遊歩道は、令和5年、6年度に一部再整備を行いました。テーブルとベンチについては、事業実施の際に検討します。
	39	古墳と公園各施設を結ぶ歩道整備を進める。階段や安全柵、手すりロープの設置が必要。特に郷土資料館から2号古墳に結ぶ歩道を歩きやすくしたい。	□	1件	施設別の利活用のアイデア(P20)に記載されているとおり、ハイキングコースは再整備できればと考えています。
	40	園路随所に総合案内版地図と行く先方向サインを増やす。逗子市全体のようなサインを整備して、その一環として行う。デザインは経験豊富なデザイナーに頼む。	■	1件	事業実施時の参考にします。
	41	古墳を含めて眺望景観を目的に樹木伐採を行い視界を上げたい。	■	1件	同上
	42	2号古墳は形状が確認しにくいので、古墳の外形を示す周囲に木杭などを打ち込み連続性を表して目印としたい。	■	1件	第2号墳の遺構表示の方法は今後の課題ですが、当面は案内板の設置等によるわかりやすい説明を検討します。
	43	長柄桜山古墳の維持管理については人為的破壊等の危もあるが施設設備費・人件費などから管理人はなく出入自由に落ち着かざるを得ない。	■	1件	国指定文化財の適切な保存と活用に配慮した維持管理に努めます。
	44	劣化に耐える素材の表示設備を望みたい。その際は長柄桜山古墳の発見者の発見年・経過等明記の顕彰案内板を。	□	1件	すでに第1号墳の整備において、耐久性の高い素材による説明・案内板を設置し、発見の経緯等を記載しています。なお、発見者の顕彰を目的とした案内板の設置は考えていません。
合計				47件	

蘆花記念公園(長柄桜山古墳群を含む)グランドデザイン(案)に関する
市民意見募集(パブリックコメント)の結果一覧(要約なし)
意見の件数・提出者数 15件 14名(1名重複)

意見者1

・旧郷土資料館の裏手から古墳方面に上がる遊歩道を昔(90年代)のように整備してほしいです。
また、今は撤去されてしまっているようですが、上がる途中の道の富士山が見える眺めのところにテーブルとベンチをまた設置してほしいです。

・旧脇村邸、休憩所は、古民家カフェ兼日替わりのカルチャースクールやレンタルスペースとして活用してほしいです。(鎌倉長谷にある『蓄の家』のようなイメージです)

旧脇村邸は大きさの規模からレストランとしての活用が丁度良いように思えますが、周辺住宅への配慮を考えると昼間限定営業のランチやカフェ(アフタヌーンティー)、撮影のレンタルスペース程度が良いと思います。

意見者2

長柄桜山古墳群については逗子市 葉山町 神奈川県三者協議会が設置されました。

この機会に是非とも登録有形文化財旧脇村邸に付いても審議会の設置などを検討していただき
当時の社会状況や人々の価値観を反映した複合的な出来事を整理することで、自然との調和、別荘文化、伝統文化への回帰等様々な要素が絡み合った貴重な文化遺産であることが理解できると
思います。

同時にこの機会に「数寄屋建築」の価値の再認識と登録有形文化財の価値や重要性を分かりやすく伝えるための広報活動がこの地区の価値向上に有効かと思えます。

【検討事項】

建設当時の歴史的背景の深掘りに付いて

・1923年佐佐木信綱女流歌人の勉強会「藤浪会」発足 関東大震災 黄禍論 大恐慌
同年1889年に始めた益田孝の私的茶会「大師会」の法人化(原三溪の計らいによる)

益田孝(重要文化財 弘法大師空間の書「崔氏玉座右銘断簡」大師会に寄贈)

高橋箒庵著「大正茶道記」の「三溪大師会」の開催時の記録には「日本の伝統文化
古建築の保存の大切さと国家の理解を述べている」

・1931 満州事変 軍国主義の台頭

・1932 5.15 事件

・夫藤瀬政次郎を偲んで七回忌に当たる1933年に普請(既存の別荘の建て直しである)

同年9月歌集「槻の下陰」発刊 藤瀬秀子 56歳

客人に富士山の眺望を配慮した歌を詠んでいる。

・藤瀬秀子にとって大切な人たちとの度重なるお別れなど

(三井物産 和歌 茶の湯 清水組との関係)

1919 父富永発叔 86 歳 1926 益田孝夫人栄子 1928 九条武子 41 歳 1931 渋沢栄一 91 歳
また 1931 近角常観 60 歳半身不随

日本文化

- ・1906 岡倉天心「茶の本」ボストンにて刊 1926 日本語訳発刊
- ・1932 横山大観「神州第一峰」発表（暗雲低迷の時局 悠久の未来を表現）
- ・1933 ドイツ建築家ブルーノ・タウト来日（桂離宮を絶賛 単純 優雅）

同年 11 月源氏物語上演禁止

数寄屋建築その匠の技 美学と歴史

- ・昭和初期は日本の伝統文化の再評価が盛んに行われていた伝統文化への回帰
- ・茶の湯の変化 広間の茶室 待合

「大師会」の法人化により茶会の庶民化「大寄せの茶会」の普及

- ・自然との調和を重視した建築 相模湾 江の島 富士山の借景 露地と土間庇
- ・伝統と現代の融合 機能的な空間 数寄屋技術を生かした新しい数寄屋普請
- ・県内の数寄屋建築 歴史背景の共有 それぞれの個性
- ・数寄屋建築の誕生の歴史 数寄屋普請の技術 茶道との関わり 建築主の個性
- ・白木の活かし方と美学 杉材 丸太 皮付き 磨き しばり 名栗 胡粉 浮造り 網代 がま箆
- ・様々な仕上げの道具 鉋カンナ 鑿ノミ 鉦チヨウナ 鋸ノコ 機械化
- ・書院と数寄屋 素材からの連想する世界

など

最後に今後蘆花記念公園の整備を進めるにあたって 専門家 地域住民と共に文化財を守り活用していく体制も併せて構築し、文化財保護法や関連法規を遵守し適切な保存・活用を進めていただければと切に願います。

意見者 3

<この地区の価値向上のための提案>

テーマ

<センス・オブ・ワンダーの森>

自然の営み 形成の過程時を超えた『体験』を通して自然との共存の在り方を模索
”豊かな心“を育むための『学び』の場を提供

“この地域の価値向上を図る”

1『豊かな環境』来園者の興味を引き記憶に残る場所 五感の刺激

自然との共生 歴史の継承 地域コミュニティの活性化 人材育成を目指す。

「自然への敬意」とか「永遠の繋がり」を大切にする文化の継承。

2 学びの環境 自然観察から“協調””循環””多様性””継続”森羅万象の学び

この地域の歴史文化(自然文学伝統文化古墳それらの形成過程)

相模湾 江の島一富士山の景観美＝生命の源である”海”と地形の形成

自然の地形を活かした”ふれあいの場”“散策道”季節ごとの観察会

自然界の多様性と共存 “自然美”に触れる

有形無形の文化財と自然 古墳や文化財のガイドツアー

安心安全で快適な自然との一体感のある付帯設備の整備地域に根ざした公園

自然美を巧みに生かした“日本の建築文化”から多様性やSDGsを探求

→ ”古墳”や”別荘地「潮湯治」”としての当時の価値を自然環境から知る。

3 支援体制整備について(主体的参加のできるシステム選定)

・ボランティア 地域住民 市民 専門家の参加と協力体制を構築出来る事業者の選定

(地域の学校 企業 NPO との連携を深め多様な主体の参加を考える)

専門家により歴史や形成過程などの情報収集整備

VR や AR 体験 ジオラマや映像展示などを組み合わせて活用

音声ガイドやワークショップ

(歴史的資料や伝承などからよりリアルな体験の提供)

4 継続させるために

多様な資金調達方法の検討

成功評価指数の設定定期的な評価を行い改善点を見つけ発展させる。

ボランティアによる公園清掃 植活動 イベントの運営補助への参加

★センス・オブ・ワンダーは「自然や対象に触れて深く感動する不思議な力」

環境保護運動の世界的な先駆けであるレイチェル・カーソンの著書「センス・オブ・ワンダー」より

意見者 4

①“伝統は保存されるものではなく、新しいものと共存し、かかわり合いながら常に創造されるもの”これはまさに、貴重な市民財産を活かす根幹でありましょう。

②次なるは、各々の施設の再生に当たり、優先順位を盛り込んだ事業形態計画作成、事業資金計画作成等を提示し市民と合意形成を図る。

③今迄の経緯より、資産(土地・建物)は公共が保有しながら、民間が経営権を獲得する方法(コンセッション)が良いです。

民間へ委譲した後々、あの緑豊かな景観及び環境を維持していく保証が難しいと思われまます。

④旧郷土資料館を“鉄骨で再生”というのは塩害の怖さを知らない言葉でしょう。木造だからこそ今迄耐えられたのです。お勧めは、主要構造である木造の破損部分の改修と減築とを絡めた再構築です。それは往年のこの環境と風景がもたらすイメージを保ち、訪れる多くの人々にその豊かな良さを伝えることができるでしょう。

⑤全てを満足させる方法もありますが、まずは手元の実現可能なものから手掛けては如何でしょうか。進めることで生じる色々な問題を都度解決しながら対応して行くことで、その先も拓けるかもしれません。

その意味より、まずは野活センターの整備から始めては如何でしょうか？

意見者 5

まずは蘆花記念公園に大勢の方が訪れていただきたい

潜在的魅力を顕在化するために楽しさを増す仕掛けをつくる

多額の費用を掛けても利用する人が少ないのでは困りますね。

市民の日常的軽い健康ハイキングコースモデルプランをつくりそのひとつとする

①そのためには、1号古墳、2号古墳と蘆花記念公園各施設を結ぶ歩道整備を進める。

階段や安全柵、手すりロープの設置が必要である。特に郷土資料館から2号古墳に結ぶ歩道があるきやすくしたい。

②園路随所に総合案内版地図と行く先方向サインを増やす

サインは逗子市全体の同じようなデザインを整備して、その一環としておこなう。

サインデザインは経験の豊富なサインデザイナーに問題点と方向性をまずコンサルしてもらう必要があると思います。

③古墳は神奈川県で一番大きい古墳なのでPRすれば魅力あるポイントとなる、

古墳時代は眺望が良かったと思うので、古墳を含めて、眺望景観を目的に樹木伐採を行い、視界を拡げたい。2号古墳は形状が確認しにくいので、古墳の外形を示す周囲に木杭などを打ち込み連続性を表して目印としたい。

④旧郷土資料館は蘆花記念公園の中央部にあるのと、眺望が良い利点を利用して、センター機能を持たせ、内部には古墳の埴輪や説明資料館を展示する。(有料)公園全体の管理機能もここで行う。コーヒー・軽食などのサービスができればよい。坂道に上がる広場に駐車場ができないだろうか、導入部の道路が狭いが。

⑤旧脇村邸 小さな展示会場、お花・お茶・書道・絵画等のミニ教室、ミニコンサート会場

マシーンによるコーヒー。軽食サービスは可能だと思う。数台の駐車場が必要。

⑥全体を花の名所として代表的な草花・樹木を1〜3種類選び、その種類を徐々に増殖して群落をつくる。自然植生とマッチした樹種、草本から選定が必要であるが。市民参加植樹祭などの企画もできる。

意見者 6

昨年、逗子アートフェスティバルの展示会場として、私第二休憩所を市の共催事業として文化スポーツ課と緑政課、逗子市観光協会も協力いただき開催することができました。しかしながら、施設はお化け屋敷のように汚く、地域のメンバーを集め大掃除するところから始まりました。無事に綺麗になり開催出来ました。これで終わりにするのではなく、引き続いて定期的に関わったメンバーやご近所さん、緑政課、市民などで掃除を行って気持ちよく利用出来ています。第一休憩所、野外炊事場も掃除をして綺麗に保っていますが、やはり老朽化で危ない部分があります。市内でも他にはない休憩所が今後、手軽に利用できる施設となるよう、予算を付けてリニューアルし私の作品の聖地をなくさないで欲しいです。今ある施設を大切に、紅葉の季節はここが一番綺麗で逗子でも異空

間です。休憩所も撮影スポットとしても広まって欲しいです。

意見者 7

蘆花公園は、現在津波難時の一時避難地である。住民はもちろん近隣の保育園児・観光客・海水浴客などが避難すると考えられるが、下桜山交友会の小さな防災倉庫しかない。また現在施設の利用が限定されているので以下の様に要望する。

- ・旧野外活動センターを整備し、毛布・水・非常食・発電機・テントなどを備蓄する。(海水浴客を考えるとできるだけ多く)
- ・高齢者・病人・幼児・妊婦などが屋内避難できるよう各施設を整備・維持する。
- ・旧野活・休憩所は、子ども達・市民の交流・活動のため利用する。(以前のようなデイキャンプ・会議・教室利用など)
- ・夜間照明・トイレを充実する。

地域住民との話しあい・連携を今後とも密にお願いしたい。

意見者 8

長柄桜山古墳の維持管理について

他県の古墳実見学をもとに長柄桜山古墳の維持管理について考察提言いたします。

A型・学芸員を擁する博物館等を中核としたもの大阪府大山古墳は堺博物館を中核に百舌鳥古墳群が紹介される。

群馬県保渡田古墳群はかみつけ野博物館を中核に紹介される。

B型・見学センターなどを中心とし施設の紹介展示。

茨城県虎塚古墳は埋蔵文化センターが管理展示。

千葉県下総松崎地区龍角寺古墳群中心部は房総の村として管理

岡山県造山古墳群はビジターセンターを中心に配置展示。

C型・日中など管理人配置。

高崎市観音山古墳は管理人配備。・兵庫県五色塚古墳は展示物と管理人日中配備。

D型・管理人はなく出入自由

群馬県太田市天神山古墳・千葉県内裏塚古墳・群馬県倉賀野地区古墳群・岡山県作山古墳。

管理のセキュリティーの高さはAからDの順位だが、施設設備費・人件費などから人為的破壊等の危もあるが、Dに落ち着かざるを得まい。ただ、まんだら堂表示は経年劣化進み、劣化に耐える素材の表示設備を望みたい。その際”逗子の相沢忠洋氏”ともいえる発見者東家洋之助氏の発見年・経過等明記の顕彰案内板を。

意見者 9

第一第二休憩所を、子育て親子で、集まって遊ぶのに、使わせて頂いています。

あの広い空間、そして外で遊ぶ姿を中から見守ることができるという所、また何より山と一体化して

いる自然豊かで、大人数で、のびできる集会所はとても貴重に感じています。
建物自体は耐震もないという事なので、維持出来なくても構いません。新規で建て直しても良いので、また集会所として、市民が活用しやすい場所にしていきたいです。

意見者 10

逗子の大切な環境資源であり、文化施設でもある蘆花記念公園。全体を一つのコンテンツとして、多くの市民や観光客への認知が今よりも認知が広がり、有効活用できるスポットとなることを望みます。

民間企業への譲渡、また、そのような機会がないようであれば、クラウドファンディングで資金を調達することもひとつのアイデアかと思えます。

詳しい知識がなく恐縮ではありますが、ふるさと納税のシステム等も導入して、修復やリノベーションの資金に当てる等も検討の余地があるかと思えます。

(ex.奈良天理市 cofunia/鎌倉市長谷 古民家ゆりいか 等)

市民や逗子を愛する人たちとのインタラクティブな関係を築きながら、より多くのひとたちへ公園が親しまれ、未来へ継続していくために必要なのではないかと思えます。

現在、公園の全体像が把握しづらい印象です。予算に限りはあると思いますが、公園の全体像が把握できるような資料や map の制作、各種メディアへの広報についてもお願いしたいです。

第一休憩所は広い空間を利用して、ワークショップ、講演会、映画上映等を行う場として最適な印象です。

第二休憩所は、世界的中の国が(日本でも来年の春から)ノマドビザの発給が始まることを受けて、環境、設備を整え、旅しながら働き、逗子へステイする旅人たちを受け入れる宿泊&コワーキング施設としての可能性があるかと思えます。

(ex.逗子市新宿 amigo house 等)

郷土資料館は、逗子八景を望み、逗子の地産のメニューをいただき、寛ぎのひとときが過ごせるカフェや甘味処など飲食店になると素敵だと思います。

素晴らしい逗子の自然と文化に触れられる蘆花記念公園が素敵なカタチで未来へと受け継がれていきますように。微力ではございますが、できることがありましたら、ぜひ尽力させていただきます。

意見者 11

第一第二休憩所は、文化財として登録はされていませんが、市民が気軽に使用できる施設として市民に愛されています。

昔の日本の建物を子どもたちがふれられる貴重な建物だと思います。

最低限の修繕でよいので残してもらえたらと願います。

意見者 12

蘆花記念公園の第1・第2休憩所と野外炊事場を、有志で集まり、数ヶ月に一度清掃を行い、清掃後に休憩所で昼食を取り、秋には紅葉狩りをしてみたり、夏には野外炊事場でBBQを行ったりと、一年を通して楽しませて頂いています。

とても良い空間で、景色も綺麗な場所ですので、仲間と集える休憩所として今後も利用したいです。

提案として、今後、小さな音楽会やイベント・会合等の場として使える施設にして頂きたいです。その為には休憩所のメンテナンスをして頂き、より一層利用者が増すようにアナウンスしていくことが望ましいと思われます。

ご検討のほどよろしくお願いします。

意見者 13

私は、公園内の旧脇村邸で1年半ほど主に草刈りのボランティアをしています。現場で感じていることも含め、安全・安心の観点から意見を申し上げます。

現場では建物裏の崖を気にしながら作業をしています。崖下はたいてい湿気っていて斜面には倒れそうな木が何本もあります。いずれ崖そのものも崩れるのではと危惧しています。

転じて、公園全体を電子マップで見ると、大半が土砂災害特別警戒区域若しくは土砂災害警戒区域に指定されており、更に、斜面上部は山腹崩壊危険地区に指定されています。市内外から多くの人々を呼び込み滞留を促す場所として現状は好ましいものではありません。

これらを踏まえると、ランドデザイン(案)の「前提条件」と「基本方針3」は表現に違和感を覚えます。足元の課題を正しく観ていないと思います。今後、適切な法面処理と樹林管理により安全・安心な公園を目指すことに資するランドデザイン(案)になるよう修正を望みます。

池子2丁目の民有斜面地の崩落により前途洋々の女子高校生が命を落としてから4年半が経過しました。親御様の無念はなお如何ばかりかとお察しします。公立公園の中で同様の悲劇があってはならないという思いでご意見申し上げました。よろしくお願いいたします。

意見者 14

1, 蘆花記念公園が市民の憩いの場所として充実・整備される事を要望致します。

2, 蘆花記念公園一帯を津波避難地・避難所として整備されるよう切に要望致します。

* 食料・水・発電機・無線設備・簡易トイレ・その他生活資材を備蓄する事。

* 第一休憩所、第二休憩所、郷土資料館を維持整備し、非常時に津波避難所として利用可能な状態に維持管理するよう要望致します。

3, 蘆花記念公園へのルート案内の整備をお願い致します。

* 夜間街灯の設置

4, 蘆花記念公園に於ける運用管理体制の構築

* 新宿会館方式に準じた形態での管理体制を構築し、利便性を図る事で公園、施設の利用度促

進を図るよう要望致します。

*第1、第2休憩所の利用度向上を図る方向に施策を転換するよう要望致します。

- ・会議。会合の場としての利用を図る
- ・教育、勉強の場としての活用。
- ・イベント開催の場としての利用等。

新宿では、毎年、青少年育成推進の会が蘆花記念公園にて「ネイチャーゲーム」を開催しており、親子100名程の参加があり、伝統的な行事として、定着。

自然環境に恵まれた雰囲気、しかも大人数でのイベント開催地として蘆花記念公園は優れた環境を有しています、この地を有効活用し、地域の財産として有効活用する事は行政として、第一に取り組むべき施策です。

是非とも、蘆花記念公園再整備プロジェクトが実現されるよう切に要望します。

追記

過日、下桜山交友会と共同で花記念公園にて、「わんこ」との同行避難訓練を試行致しました、市内には5000頭のわんこが登録されていると承知しています

蘆花記念公園を「ペット」との同行避難場所として検討頂くようお願い致します。

意見者 15

グランドデザイン案につきまして、基本方針、エリアマップとゾーニング、具体的な施設利用案について、以下の通り意見を申し上げます。

●グランドデザイン案の前提としての逗子の社会課題

大前提として、今後の逗子における社会課題として、人口減少対策が喫緊であることは論を待たず、これに対して市の総合戦略でも以下の基本目標が定められています。

【基本目標1】若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

【基本目標2】逗子市への新しいひとの流れをつくる

【基本目標3】逗子市に暮らしながら「しごと」の希望をかなえる

【基本目標4】魅力的で、誰もがいつまでも安心して健康に暮らせる

まちづくりを推進する

蘆花記念公園は、都心からの通勤圏内および駅から徒歩圏であり、大規模な面積を有し、活用可能な魅力的な施設があり、山と海に近く、素晴らしい眺望を有するという、県内はもとより首都圏レベルでもみても唯一無二の存在です。

逗子を将来にわたって、若い世代に選ばれる活気あるまちとすべく、総合戦略の基本目標に照準を合わせて、蘆花記念公園を徹底的に活用する必要があると考えます。

そのような観点から、グランドデザイン案の1～9の基本方針およびエリアマップとゾーニングは非常に素晴らしいものと思われました。その上で、特に以下の基本方針についての所感および具体的な施設利用の案を申し上げます。

●基本方針2(子育て・教育・交流)の観点からの保育施設

基本方針2(子育て・教育・交流)は、総合戦略の基本目標1「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の、特に「子育ての希望をかなえる」に該当し、蘆花公園が重要な役割を果たすと考えます。

逗子市は、逗子なないろ保育園やしらかば逗子乳児保育園の開設など、近年保育施設の充実に力を入れており、待機児童問題は一時期よりは解消に向かっていると認識しています。よって、今後は保育の質を高め、首都圏にはない「逗子ならではの子育て」を可能としていくことが重要です。「逗子ならではの子育て」として、逗子の海側には、逗子の海・山の自然の中で子供を保育する「ごかんのいえ・ごかんのもり」や「うみのこ」などが市民によって立ち上げられています。ただし、これらの保育施設はアクセス、安全性が必ずしも良好とはいえない場所に位置しており、また、施設規模が小さく入園の競争が非常に激しくなっています。アクセス、安全性の観点から入園を断念する家庭が多いと考えられ、また、入園希望を提出しても競争が激しく落選する家庭が多い状況です。このことから、このようなタイプの保育施設として、アクセス・安全性が高く、一定の施設規模を持つものを蘆花記念公園の中に設置することができれば、「ごかんのいえ・ごかんのもり」や「うみのこ」への潜在的な入園希望家庭の希望を満たして総合戦略の基本目標1「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」に寄与することはもとより、逗子市は、このような海・山の自然での保育を求める子育て世帯を市外からも一層惹きつけることのできるまちとなり、基本方針9.(移住・定住促進)、および総合戦略の基本目標2「逗子市への新しいひとの流れをつくる」にも大きく貢献するものです。

以上から、海・山の自然の中で子供を保育する保育施設を設置・誘致することを希望します。

まずは、市内(外)のこのようなタイプの既存の保育施設の運営者の意見を聴取してはいかがでしょうか。

なお、保育施設として活用するのは、子供たちが遊び育つことが掲げられている「防災・交流ゾーン」に位置し、かつ、施設の改修費用が比較的抑えられると考えられる休憩所とするのが現実的と考えます。

●基本方針4(新たな魅力創出)の観点からのカフェ

総合戦略の基本目標2「逗子市への新しいひとの流れをつくる」については、

①まずは休日などに逗子に足を運んでもらい、逗子を気に入ってもらった上で、

②逗子での暮らしを想像・体験してもらい、

最終的に逗子に移住してもらい流れを作り出すことが重要と考えます。

上記の①として、基本方針4(新たな魅力創出)の観点から、まずは休日などに足を運んでもらうために、蘆花記念公園の既存施設をカフェとして活用する案は非常に有効と考えます。逗子、葉山には人気のある古民家カフェも多いですが、蘆花記念公園ほどの木々に囲まれ、郷土資料館や休憩所のように海と富士山への眺望が確保されたものはありません。蘆花記念公園では他に類を見ない魅力的なカフェを設置できると考えます。なお、逗子、葉山には駐車場のないカフェも多いですが、バスを利用して多くの利用者が訪れていることから、蘆花記念公園も問題はないと考えます。逗子駅や逗子・葉山駅⇔蘆花記念公園のカフェ(興味がある人は古墳へ一足延ばす)⇔逗子

海岸(SUP体験、など)⇔逗子駅や逗子・葉山駅を観光コースの一つにできると市内の回遊性とにぎわいも大いに高まると考えます。この点において、京急と連携し、葉山女子旅きっぷを活用できるとよいと考えます。

●基本方針4(新たな魅力創出)と基本方針8(仕事場の創出)の観点からの宿泊施設とコワーキングスペース

また、先述の②については、基本方針4(新たな魅力創出)のうち、特に「宿泊」が重要となることから、旧野外活動センターを宿泊施設とする案はとても良いと考えます。理想は、「お試し移住」として短期間で、特に若い世代に宿泊してもらい、逗子での暮らしを実体験してもらうことです。逗子での暮らしに憧れを持っている人は非常に多いですが、都心から電車で1時間というのがネックとなり、一步を踏み出せない人も多いです。このような人に短期間でのお試し移住の場を提供できれば、逗子への移住を決断してくれる人が大きく増加するのではないかと考えます。

また、そのためには、グランドデザイン案の基本方針8(仕事場の創出)も非常に重要であり、コワーキングスペースの案は素晴らしいと思います。魅力的なコワーキングスペースの存在を知ることができれば、特にリモートワーカーの方々にとって、移住へのハードルが一気に下がるものと考えます。総合戦略の基本目標3「逗子市に暮らしながら「しごと」の希望をかなえる」にも合致したものとなります。

もちろん来街者へのアピールだけでなく、日ごろからリモートワーキングをしている市民にとって魅力あるコワーキングスペースとなることは言うまでもありません。

●基本方針9.(移住・定住促進)のための、市民と来街者にとっての蘆花記念公園

上記によって、市民にとっては、逗子らしい子育てがより身近なものとなり、コワーキングスペースでのリモートワーキングや素晴らしいカフェでのひと時を過ごすことができるようになり、逗子での生活の充実度がさらに向上し、定住を促進できると考えます。

来街者には、一般的には蘆花記念公園のカフェや逗子海岸、逗子市街地を楽しむ休日を過ごしてもらいつつ、蘆花記念公園を通る際には、自然の中でのびのびと育つ子供たちの姿、快適なコワーキングスペース、さらにはお試し移住できる宿泊施設の存在を目にしてもらいます。特に子育て世代をはじめとして、逗子への移住を検討してもらい、宿泊施設も活用してもらいながら、逗子への移住につなげるという流れです。

このように蘆花記念公園を徹底的に活用し、基本方針9.(移住・定住促進)を進め、最終的には、総合戦略の基本目標4「魅力的で、誰もがいつまでも安心して健康に暮らせるまちづくりを推進する」ことが重要と考えます。